

聞るもあるは、往時喪亂の世、敗軍の將士、爰に隠れ、後世子孫の名も、自然とみやびやかに付たる歟、

〔兔園小説 十二集〕古代の呼名

江州伊香郡金居原村百姓

梨之木

藤之棚

萬代

上之山

堂之坂

川端

右之村方は、山中にて炭焼を業に致し居候、往古は一村不殘、右様の名を附居候由に候へ共、追々何次郎、何右衛門など、改名致し、當時宗門帳に、右六人の者、右様の名を附居申候、

同郡奥河並村百姓

大夫

右村方にては、婦相果候夫は何れも大夫と、年々宗門帳に相附居申候、如何成故と相尋候へば、夫相果候婦を、後家と申すも同じ事と申し居候、

右彦根家、富田甚右衛門殿の話なり、

〔乾坤辯説序〕此篇者、南蠻不留都我留國之人、忠庵所編述也、略中

時明曆己亥九月望日

肥陽長崎 向井玄松序

〔平家物語二〕さすながしの事

治承元年五月五日の日、天台さす明雲大そうじやう、公請をちやうじせらる、うへ藏人を御つ